

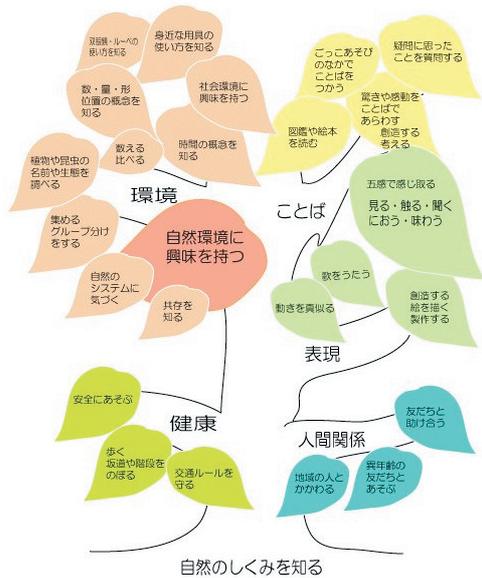
# A-7. 「平和台探検隊」

## よいこのもり保育園(宮崎県宮崎市) <5歳児 7月~2月>

### 自然に親しむ保育

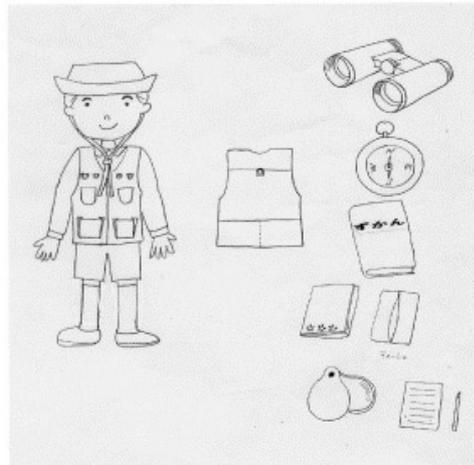
どっぷりと自然に親しみ、自然の中で見たり、感じたり、考えたりする体験をして、動物や鳥、昆虫、植物など生物との共存の仕組みを知り、生命の不思議さや畏敬の思いを育てたい。

### 平和台探検隊の考え方



### 平和台探検隊の服装

探検隊用のポケットのたくさんついたベストと帽子をかぶります。ポケットには、コンパスやルーペ、ミニ図鑑を入れ、双眼鏡を持ち本格的な探検隊スタイルです。



万歩計一日歩数

### 事例

#### 【木は生きている】7月

平和台の自然に親しむうちに、「この虫はこの木が好き」ということを知ったり、図鑑を開いて葉っぱや実の形から木の種類を見分けたり、名前を覚えたりしています。平和台公園では上を見上げて、枝がいっぱい繁っていることに驚いたり、風で木々がざわめいている音に耳を澄ませて聞き入っていることもあります。ルーペを使って「葉っぱには細い葉脈がたくさんある」ことも発見しました。子どもたちの関心は、今、木の内部に移っています。切り株を見て年輪を数えたり、中が空洞になっている枯れ木を見て『木の中には何が入っているのかな?』と不思議がっています。そこで、聴診器を持っていき、木に当ててみました。『ドクンドクンって聞こえたよ』『トクトクといったね』など、感じ方がひとりひとり違います。自分たちの心臓の音が聞こえるように、木の中に何かがあると感じ取ったようです。園に帰ってからも木について詳しく調べてみました。根から水を吸っていること、中には水や栄養の通る管があることなどを知りました。『じゃあ、あの音は木が水を吸っている音だったのかな』と、自分たちの発見に喜んでいました。ほかにも、自分たちと同じように息をし、また空気をきれいにしていることも知りました。『もし、木がなくなったら、どうしよう』『虫の家がなくなる』『空気が汚くなるよ』『あそべなくなる』など、子どもたちで話しています。「木が生きている」こと、木は他の生物にとっても大切なものだと感じ始めています。



### 【ヤマミズ発見に大興奮】9月

『見て！へびかな？』『ミミズに似てるよ』子どもたちが興奮して山の斜面をのぞいています。体長約25cmのヤマミズです。この大きさのミミズを初めて見た子どもたちは、土の中からでてきたことや、どちらが顔でどちらがお尻か判らないということをしきりに話しています。どうしてこんなに大きくなったのかを口々尋ねます。みんなで調べてミミズは、土の中の枯葉や食べる糞をし、土に栄養を与えるということが分かりました。これから土の中にもいっそう興味を示すことでしょう。



### 【森のおべんとう】11月

森には木の実や落ち葉がいっぱいです。それを使って「動物の弁当」作りをしてあそびました。『ドングリを食べるのはリスだよ』『ミミズの食べ物は落ち葉だよね』と話しながら並べていきます。

探検を重ねるごとに、子どもたちが土の中には小さな虫がたくさんいること、落ち葉が土の栄養になること、鳥たちが木の実を食べて出す糞から種が出て植物が芽吹くことにも関心を示しはじめました。「何を食べて生きているのか」に興味を持ったようです。これを機会に、食物連鎖や、自然の循環にも少しずつ目を向け、自然のしくみのおもしろさを感じ取ってほしいと思います。



### 【森は、おもしろい!】2月

平和台広場のセンダンの木にとまって実をついばむアオゲラを双眼鏡で興味深く見ていました。図鑑で調べると同じ鳥の中でも木の実を食べる鳥、小動物を食べる鳥などにわかれていることが分かりました。そこで、鳥の巣箱を作り、平和台の森にパン、バナナ、みかんなどを置くことにしました。『きっと、パンを食べるよ』『バナナも食べるかな?』とそれぞれに予測を立て友だちと話しています。数日後、巣箱を見に行くと『みかんがなくなってるよ!』と、子どもたちは驚いた表情でした。『果物を食べるのはヒヨドリだよ』『メジロやハシボソカラスも食べるんだって』と、探検の後にも図鑑で調べるなど予想以上に子どもたちは鳥への関心が高まっています。



#### まとめ

子どもたちにとって平和台探検隊は、発見が驚きの連続です。これまでに子どもたちは、樹木や草花、昆虫、小動物を、見て、触れて、鳥や虫の鳴き声、風に揺れる葉の音、花の匂いなどを全身で感じ、その感動を友達と分かちあってきました。そして自然をより身近に感じ、おもしろさや不思議さを味わうことができたと思います。また、少しずつですが、「どうしてこうなるの?」「なぜ?」と自然の循環や環境問題にも目を向けて尋ねるようになりました。探検は、子どもたちに偉大な自然の中での小さな人間の存在を感覚的に感じ取らせたと思います。

## ポイント

子どもたちは、園から3キロの道のりを歩いて平和台公園に行き、広大な公園を走り回って探検をします。日常の保育の中で体力作りの取り組みが行われていて探検もダイナミックです。そんなよく動き回る子どもたちが、木に聴診器をあてて、木の音を聞く静の姿も心に響きました。自然の不思議さを子どもたちが自分の身体全体で体験し感じています。